

成年後見の社会学



判断能力が不十分とされた個人と、
社会はどのように向きあっていくのか
本人の居場所・ケアの最適決定、身上監護・生活支援の側面を
インタビュー調査を通じて分析し、成年後見の社会化概念を
問い直す。

成年後見制度はどのように運用され、それは人々の生活にいかなる影響を与えたか。成年後見制度に社会学の立場から光を当てる。

著者、編者、訳者など	税所 真也 著
ジャンル	福祉・医療
ISBN	978-4-326-60328-2
出版年月	2020年2月
判型・ページ数	A5判・336ページ
定価	本体 5,500円＋税
在庫	在庫あり
ネット書店を選択	選択して下さい

内容説明

財産管理・権利擁護を中心に論じられてきた成年後見制度。本書は、本人の居場所やケアの処遇決定といった身上監護・生活支援の側面をインタビュー調査を通じ分析し、成年後見の社会化概念を問い直す。判断能力が不十分とされた個人の私有財産と身上監護に関する決定を社会はどのように扱うのか。社会学の立場から制度にきりこむ研究書。

[このページのトップへ](#)

目次

まえがき

序章 分析の視点と本書の構成

- 1 問題背景
- 2 問題設定
- 3 本書の研究意義と構成
- 4 調査における倫理的配慮

第1章 成年後見制度

- 第1節 成年後見制度の概要
- 第2節 成年後見の登場の背景
- 第3節 スローガンとしての「成年後見の社会化」

第2章 成年後見の社会化

- 第1節 「成年後見の社会化」の法学的理解
- 第2節 「介護の社会化」の社会学的理解
- 第3節 成年後見の社会化による「介護の社会化」の補完

第3章 成年後見制度と個人化

- 第1節 親族後見人から第三者後見人へ——家族の変化
- 第2節 市町村長申立制度の運用における中間集団の役割

第4章 成年後見による財産管理の社会化

- 第1節 生命保険の支払請求における成年後見制度の扱い——市場への包摂
- 第2節 家庭裁判所による後見人の選任基準の変化——士業専門職の主流化
- 第3節 成年後見による家計管理の社会化——家計の個計化と世帯分離

第5章 成年後見による身上監護の社会化

- 第1節 後見人による居住環境支援——本人の居場所の形成
- 第2節 身上監護と自己決定——協議の場の社会化
- 第3節 生活協同組合による成年後見——「身上監護」から生活支援へ

終章 本書における成年後見の社会化概念

- 1 成年後見の社会化概念の再評価
- 2 成年後見の社会化からみた個人・家族・市場・国家の関係
- 3 結び——成年後見制度のあらたな可能性に向けて

あとがき
文献
図表目次
初出一覧
助成一覧
事項索引

[このページのトップへ](#)

関連書籍